

# 廃木材よ…よみがえれ！！

廃木材には「マテリアルリサイクル」により与えられる使命がまだあります。



## 廃木材の利活用、このままでいいのでしょうか？

現在、廃木材の利活用について議論される際に、常に話題の中心になるのがバイオマス発電を中心とした「エネルギー利用」です。再利用することが出来ない廃棄物をエネルギーに還元することは非常に有効な活用法であると言えます。

しかし、「エネルギー利用」する前に、今一度考え直して下さい。

その廃木材は「マテリアルリサイクル」が出来るのではないのでしょうか？ 私達東京ボードグループは皆様とともに「マテリアルリサイクル」の手助けをさせていただきます。そして共にCO<sub>2</sub>削減を図り、地球環境をより良いものへと改善していきましょう！木々に永遠の命を与えたい…。それが東京ボードグループの使命です！！



東京ボード工業株式会社  
 本社 〒136-0082 東京都江東区新木場2-11-1 TEL:03-3522-4138 FAX:03-3522-4137  
 新木場工場 〒136-0082 東京都江東区新木場2-12-5 TEL:03-3522-1524 FAX:03-3522-1525  
 埼玉工場 〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-996-4541 FAX:048-996-4562  
 横浜エコロジー株式会社  
 〒236-0003 神奈川県横浜市金沢区幸浦1-4-2 TEL:045-778-1153 FAX:045-778-1154  
 ティー・ビー・ロジスティックス株式会社  
 〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-994-1311 FAX:048-994-1315  
 TB関西物流株式会社  
 〒630-8452 奈良県奈良市北之庄西町1-6-11 TEL:0742-50-6222 FAX:0742-50-6667

私達は  
 地球温暖化防止に  
 全力で取り組みます

「とうきょうさんぱい」

通巻第四〇六号

令和六年七月一日

発行人 鈴木宏和

発行 一般社団法人 東京都産業資源循環協会

# とうきょうさんぱい

第41巻第4号 通巻第406号  
 令和6年7月1日発行

## 第12回 定時総会を開催

鈴木宏和 会長再任、新役員迎え3期目がスタート

- 事務局長就任のご挨拶 東京都産業資源循環協会 事務局長 竹内高広
- 全産連 第3次労働災害防止計画の安全衛生啓発ポスター（令和6年度）





**Recycle Quality**  
「リサイクル」の品質を高めるために  
「リサイクル」の品質を高めるために

**廃棄物を 100% 資源に** 地球にやさしい燃料を作っています。  
廃棄物処理を通じてSDGsの実現に貢献。

■廃棄物の再資源化(産廃・一般廃)  
化石燃料使用の削減を図るため、廃棄物からRPF(固形燃料)、  
フラブ燃料を作り出す再資源化を推進します。

■プライベートパスの設置  
陸送よりもCO2排出の少ない船舶輸送を推進します(モーダルシフト)。

■埋立ゼロを目指して  
廃棄物の100%リサイクルにより、サステナブルな循環型社会を目指します。

**有明興業株式会社**  
ARIAKE KOUGYO CO., LTD.

東京都 優良産廃処理業者認定制度  
優良認定業者

ISO 55001/AS Q 21001

- 若洲工場：東京都江東区若洲 2-8-25
- リサイクルポート：東京都江東区若洲 2-8-17
- 京浜島工場：東京都大田区京浜島 3-3-14
- 市原工場：千葉県市原市玉前西 2-9-1
- 八丈島事業所：東京都八丈島八丈町大賀郷 8316-1

本社：〒136-0083 東京都江東区若洲 2-8-25 TEL：03-3522-1911 FAX/03-3522-1919 http://www.aknet.co.jp/

『ありがとう』という感謝の心

**株式会社 ハチオウ**

都心事業所 〒130-0004  
東京都墨田区本所 4-29-2  
TEL 03-3625-2080 FAX 03-3829-2307

西東京事業所 〒193-0813  
東京都八王子市四谷町 1927-2  
TEL 042-625-4696 FAX 042-625-4643

ISO 14001 CERTIFICATION EUROPE  
優良産廃処理業者認定制度  
優良認定業者

ハチオウ 検索

CONTENTS

**第 12 回 定時総会を開催** ..... 2

定時総会  
定時総会・新理事紹介・表彰式 ..... 2  
令和5年度 事業報告(概要) ..... 4  
令和5年度 決算報告(概要) ..... 8  
役員名簿 ..... 9  
令和6年度 表彰受賞者 ..... 10

**懇親会**  
会長挨拶・来賓祝辞・乾杯・中締め ..... 12  
来賓芳名簿 ..... 17

**賛助会員コーナー** ..... 11

**事務局長就任のご挨拶**  
東京都産業資源循環協会 事務局長 竹内高広 ..... 18

**全産連**  
**第3次労働災害防止計画の  
安全衛生啓発ポスター(令和6年度)** ..... 19

法制度検討委員会 東京都モデル契約書にリチウムイオン電池条項を明記 ..... 20  
身近なヒヤリ・ハット事例 Part 179 ..... 21  
青年部だより 施設見学会を開催～ANA Blue Base Tour～ ..... 22  
理事会・委員会報告 第89回理事会、中間処理委員会〈中和・脱水分科会〉、人材確保プロジェクト、  
建設廃棄物委員会〈建設汚泥・再生砕石分科会〉、収集運搬委員会 ..... 24  
優しい社会に向けた会員企業の取組 [第2回] (株) 調布清掃の障がい者雇用について  
(会社・上司のあり方と取組) ..... 26  
新入会員紹介 [正会員] 上昇運輸(株) ..... 28  
広告 (株) 京葉興業(正会員) ..... 29  
広告主募集 ..... 30  
「産業資源循環情報」の原稿を募集します ..... 30  
協会の主な今後の日程 ..... 31  
事務局だより・編集後記 ..... 32  
表紙の言葉 ..... 31



## 第12回 定時総会を開催

### 鈴木宏和 会長再任、新役員迎え 3期目がスタート

東京都産業資源循環協会は、令和6年5月24日(金)15時から、ホテル椿山荘東京(文京区関口)において、第12回定時総会・令和6年度表彰式・懇親会を開催しました。

定時総会では、令和5年度の決算報告、理事・監事選任の件につき審議し、いずれも原案どおり承認可決されました。また、会場前の通路には、「賛助会員コーナー」を設け、3社が自社の事業紹介を行いました。(取材 塩沢 美樹)



鈴木会長(前列左から6人目)を囲み新役員一同

#### 定時総会

##### 1 定足数報告

司会の竹内高広 事務局長より、本日現在の正会員数は535名、出席正会員数は委任状及び議決権行使による表決数を含め373名(出席率70%)であり、本総会は適法に成立したことが報告された。

##### 2 開会

野村幸江 常任理事の開会宣言に続き、鈴木宏和 会長が開会挨拶を述べ、仮議長に就いた。議長は定款に基づき、出席正

会員の中から加藤宣行 副会長を議長に指名した。

加藤 議長は議事録署名人に井上弘之 常任理事、福田隆 理事の2名を指名し、議案審議に入った。

##### 3 議事

###### ● 報告事項 令和5年度 事業報告

鈴木研二 専務理事が、議案書に基づき、令和5年度の事業報告を行った。

※事業報告概要は4～7ページ

● 第1号議案 令和5年度決算報告承認の件  
鈴木 専務理事が、議案書に基づき、決算内容を説明し、承認を求めた。

山崎隆一 監事が議長の指名をうけ、決算並びに理事の業務執行につき監査した結果、いずれも正確妥当であることを認めた旨を報告し、本案は原案どおり承認可決された。 ※決算概要は8ページ

###### ● 第2号議案 理事、監事選任の件

鈴木 専務理事が、現在の理事及び監事の任期が本総会の終結時までであるため、理事19名、監事3名の選任を行いたい旨を述べたのち、議案書の役員候補者名簿を読み上げた。異議なく承認可決され、候補者はいずれも就任を承諾した。 ※役員名簿は9ページ

##### 4 閉会

都築建 常任理事が閉会を宣言し、定時総会を終了した。

#### 新役員紹介・挨拶

司会の竹内 事務局長が、総会終了後の臨時理事会において決定した役付理事、理事、監事の紹介を行った。

会長に就任した鈴木宏和 氏は「協会の第7代目の会長として3期目となります。どうぞよろしくお願いいたします。再任にあたり所信を述べさせていただきます。

まず第1に、会員の皆様のニーズに応え、皆様方の事業の一層の発展を支える協会運営に努めるとともに、当業界の成長、発展を目指し産業廃棄物の適正処理並びに資源循環等の推進について国や都、関係団体等に強く訴えてまいります。第2に協会の体制を強化し財政基盤を確たるものにするためにも引き続き新たな会員の確保に力をいれてまいります。第3に、政府が循環経済への移行を進めるこの機会



総会会場

に、資源循環業へと飛躍を遂げるべく研修や要望活動等を積極的に進めてまいります。脱炭素化、デジタルトランスフォーメーション等の課題についても引き続き取り組んでまいります。また、特に今年は東京都からの要請も踏まえ災害廃棄物処理の支援体制の構築に取り組んでまいります。最後に労働災害を減らし魅力ある職場環境を実現していくためにも安全衛生の取組にも力を入れてまいります。

本日ご選任いただきました役員とともに、これらの諸課題に全力で取り組んでまいります。会員の皆様のご理解、ご協力、国や都・関係団体の皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。」と所信を述べた。

#### 表彰式

続いて、「一般社団法人 東京都産業資源循環協会 顕彰及び表彰規程」に基づく表彰式を執り行い、「功労者表彰」、「優良事業所表彰」、「優良従事者表彰」、「安全衛生表彰の会長賞表彰」、「感謝状」の5つの表彰を行った。

※表彰受賞者は10～11ページ

## 令和 5 年度 事業報告・決算報告（概要）

### 1. 適正処理・資源循環推進事業

#### (1) 調査研究事業

##### 1) 調査研究

適正処理の推進と循環型社会・脱炭素・デジタル社会の進展に向けた調査研究を行い、東京都などへの提案を行った。具体的には、東京都災害廃棄物処理計画の改定に当たっての意見提出、令和 6 年度の東京都予算への要望活動、脱炭素の取組調査の実施、など。

##### 2) 普及啓発

調査研究の成果は、機関誌「とうきょうさんばい」などの媒体を活用し、広く提供した。また、都内中小企業にリチウムイオン電池排出時の注意を呼びかけるため、東商新聞 11 月 20 日号に注意喚起の記事を掲載いただいた。

#### (2) 研修事業

##### 1) 一般研修事業

建設廃棄物・四団体合同施設見学会・意見交換会は、建設廃棄物について、排出事業者団体、処理業者、行政の三者によって意見交換を行うもので、32 名の参加があった。

医療廃棄物適正処理研修会は、東京都環境局、東京都医師会との共催で行っているものであるが、令和 5 年度は研修会に代えて協会の医療廃棄物委員会が作成した資料を一定期間東京都医師会のホームページに掲載した。

##### 2) 講習会事業（許可申請等に関する講習会）

東京都内で実施される許可申請に関する収集・運搬課程、処分課程及び特別管理産業廃棄物管理責任者の講習会を、実施機関である（公財）日本産業廃棄物処理振興センターに協力し実施した。

参加者数は、新規許可申請講習会は 1,079 名（対前年度比 1.23 倍）、更新許可申請講習会は 1,616 名（対前年度比 1.09 倍）、特管管理責任者講習会は 2,477 名（対前年度比 1.03 倍）、特管管理責任者講習会〔医療関係機関等対象〕は 165 名、PCB 廃棄物の収集運搬作業従事者講習会は 77 名であった。

#### (3) 相談指導事業

令和 4 年度からは専門相談員を廃止し、事務局職員にて、会員の産業廃棄物処理業者の紹介を行い、法律相談があった場合は東京都環境局等を紹介している。

令和 5 年度の相談件数は 2,689 件で、昨年度の 95% であった。

### 2. 環境対策事業

災害廃棄物対策事業では、全国産業資源循環連合会（以下「全産連」）関東地域協議会において、災害廃棄物処理の相互応援協定を 6 月に締結した。

東京都の災害廃棄物処理計画の改定もあったことから、協会では、災害廃棄物委員会を令和 6 年 4 月から設置して、検討を進めている。

### 3. 普及事業

#### (1) 普及事業

##### 1) 普及・広報活動

協会の社会的意義や取組状況などを、機関誌「とうきょうさんばい」をはじめ、ホームページ等で紹介し、広報に努めた。

##### 2) 図書等の有償頒布

「マニフェストシステムがよくわかる本」「建設廃棄物処理委託契約書」「建設廃棄物処理委託契約書様式及び記入例」の販売を行った。

##### 3) 産業廃棄物管理票（マニフェスト）普及事業

廃棄物処理法で義務づけられている、産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、全産連及び建設六団体副産物対策協議会から受託し販売した。頒布実績は対前年度比 87% となり、過去 5 年間では 3 分の 2 に減少した。この分、電子マニフェストの普及が進んだものと考えられる。

#### (2) 機関誌の発行事業

会員に対する基本的な情報伝達手段である、機関誌「とうきょうさんばい」は第 392 号から第 403 号を発行した。

### (3) 会員事業

#### 1) 会員研修事業

会員に限定した研修会・講習会を次のとおり実施した。

- 国内処理施設見学研修会は 4 年ぶりに開催し、10 月に㈱ショーモン（埼玉県）を訪問した。
- 安全衛生研修会は 2 月に開催し、東京都環境局の講話・東京労働局の講演・トヨタ自動車からの土間選別の現場 DX に関する講演を行った。
- 収集運搬委員会主催の研修会では、「収集運搬業のための採用設計セミナー」「企業の交通リスクセミナー（経営者・管理者向け）」「企業の交通リスクセミナー（実務担当者・ドライバー向け）」を実施した。
- 中間処理委員会主催では、「L C A 勉強会」「プラスチック資源循環に関する国内外の取り組み研修会」「A I ロボット勉強会」「DX に関する勉強会」「労働安全衛生法の新たな化学物質規制の対応セミナー」を実施した。

#### 2) 会員交流・増強事業

- 会員の連携強化と協会の活性化を図るため、総会後の懇親会（5 月）、賀詞交歓会（1 月）を実施したほか、多摩支部、青年部、女性部が積極的に活動を行った。
  - 新入会員から協会への要望等を聞くため、意見交換会を 6 月及び 11 月に開催した。
- ※ 会員数（正会員及び賛助会員）は、令和 5 年度中 22 社入会、16 社退会の結果、令和 6 年 4 月 1 日現在 612 社となった。



- 関係団体との協力では、全産連、関東地域協議会の諸活動に参画し、積極的に情報交換等を行った。全産連等が主催する全国大会が11月に東京で開催され、協会会員も参加した。

### 3) 顕彰・表彰事業

令和5年度は、『功労者表彰』2名、『優良事業所表彰』4社、『優良従事者表彰』3名、『感謝状』1名、『安全衛生表彰』1名を表彰した。

### 4) 人材の確保に向けた採用支援

- 人材確保プロジェクトで、10月に「若手社員のためのスーパーエコタウン研修会」を実施した。
- 「業界別人材確保オーダーメイド型支援事業」〔(公財)東京しごと財団〕を令和4年度と5年度の2か年で実施した。セミナーの開催（令和5年度、2回）、参加各企業でのコンサルティング（令和4年度との合計で5回）を実施したほか、会員が採用時に使用できる業界PR動画及び取組事例集を作成し、協会ホームページより閲覧できるようにした。取組事例集はすべての正会員に配布した。

### 4. 管理運営

定時総会（1回）、理事会（定例会6回）、常任理事会（8回）を開催した。

協会事務運営では、事務の効率化のため、会費の自動振替と、会員への電子メールによる情報提供を進めている。また、協会の預金保護を図るため、預金口座の一部を決済性預金に変更した。

### 5. 委員会・部会活動

#### (1) 総務委員会

総務委員会は、事業計画や協会の財政基盤強化などについて協議、調整を行った。

#### (2) 法制度検討委員会

リチウムイオン電池の混入防止策、家電リサイクル法の問題点、委託契約書簡素版について、拘束時間削減に向けたドライバー交換方式運用時のマニフェスト記載について、一般廃棄物を産業廃棄物処理業者が扱えるようにするための法改正について、の5課題について検討を重ねている。

#### (3) 広報委員会

機関誌「とうきょうさんばい」の編集を中心に毎月1回（年12回）委員会を開催した。

#### (4) 安全衛生推進委員会

3回の委員会と1回の研修会を行った。令和4年度から始めた、東京労働局との合同安全衛生パトロールを5年度も実施した。

安全衛生標語募集を行い、優秀者の表彰、優秀標語のポスターの作製配布を行った。

ヒヤリハット事例は協会機関誌に毎月掲載している。

#### (5) 収集運搬委員会

委員会を3回、セミナーを3回開催した。9月には苫小牧CCS実証試験セ

ンターの施設見学会を実施した。

#### (6) 中間処理委員会

中間処理委員会は、3分科会【破碎・圧縮分科会】【焼却分科会】【中和・脱水分科会】の活動を含め、研修会や勉強会を5回開催した。

11月に、㈱レゾナックのケミカルリサイクル施設の見学会を開催した。

#### (7) 建設廃棄物委員会

委員会を2回と、四団体合同施設見学会・勉強会を開催した。

【建設混合廃棄物分科会】では、2024年4月から働き方改革法が施行されることから、一都三県建設混合廃棄物意見交換会を11月に開催した。

#### (8) 医療廃棄物委員会

委員会を4回開催して、排出事業者に対してお願いするリーフレットを作成し、東京都医師会等に配布した。

9月に、神奈川県協会・静岡県協会との合同懇談会を開催し、コロナ後の処理状況、燃料や資機材の高騰する中での処理費用の設定の考え方、感染性廃棄物処理マニュアルに基づく管理について意見交換をした。

2月に目黒清掃工場と㈱日本シルバの施設見学を実施した。

#### (9) 多摩支部

6月に、支部会・講演会・研修会を開催した。

2月には、多摩環境事務所と八王子

市廃棄物対策課との適正処理意見交換会を実施した。

#### (10) 青年部

幹事会（10回）、定時総会（5月）、東京都内で出来る自然体験（8月）、マネジメント研修会（9月）、新春講演会・賀詞交歓会（1月）を開催した。

また、設立30周年を迎えたことから、記念式典を10月に開催した。

#### (11) 女性部

幹事会（10回）、定時総会（6月）を開催した。

5月には横浜市内と川崎市内の施設見学会、2月には奄美大島の施設の見学会を開催した。

また、サーキュラーエコノミーとLCAの基礎についての勉強会（7月）、SNSのリスクマネジメントについての法律勉強会（10月）、女性が活躍する産廃業界の現状と課題についての勉強会（12月）を開催した。

正味財産増減決算  
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額 A	決 算 額 B	差 異 A-B	執行率 B/A	備 考
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①受取入金	450,000	340,000	110,000	75.6%	
正会員受取入金	400,000	240,000	160,000	60.0%	
賛助会員受取入金	50,000	100,000	△ 50,000	200.0%	
②受取会費	76,252,000	75,532,000	720,000	99.1%	
正会員受取会費	72,472,000	71,502,000	970,000	98.7%	
賛助会員受取会費	3,780,000	4,030,000	△ 250,000	106.6%	
③事業収益	49,960,000	57,985,955	△ 8,025,955	116.1%	
研修事業収益	0	56,000	△ 56,000	-	
許可申請講習会事業収益	12,095,000	12,839,036	△ 744,036	106.2%	講習会事務手数料等
普及事業収益	1,300,000	1,329,500	△ 29,500	102.3%	図書頒布料等
マニフェスト普及事業収益	19,260,000	19,466,400	△ 206,400	101.1%	マニフェスト頒布料等
機関誌発行事業収益	8,200,000	8,720,000	△ 520,000	106.3%	機関誌広告料
会員事業収益	9,105,000	13,662,880	△ 4,557,880	150.1%	賀詞交歓会会費等
受託事業収益	0	1,912,139	△ 1,912,139	-	全産連脱炭素調査等
④雑収益	598,000	851,858	△ 253,858	142.5%	
受取利息	2,000	1,983	17	99.2%	預金利子
雑収益	596,000	849,875	△ 253,875	142.6%	保険紹介手数料等
経常収益計	127,260,000	134,709,813	△ 7,449,813	105.9%	
(2) 経常費用					
①事業費					
A適正処理推進事業	34,363,000	33,761,473	601,527	98.2%	
調査研究事業費	10,277,000	9,907,338	369,662	96.4%	
研修事業費	19,247,000	19,086,627	160,373	99.2%	
相談指導事業費	4,839,000	4,767,508	71,492	98.5%	
B環境対策事業	2,741,000	2,574,938	166,062	93.9%	
環境対策事業費	2,741,000	2,574,938	166,062	93.9%	
C普及事業	77,678,000	79,816,181	△ 2,138,181	102.8%	
普及事業費	31,531,000	31,151,505	379,495	98.8%	マニフェスト仕入額等
機関誌発行事業費	15,455,000	15,348,493	106,507	99.3%	
会員事業費	30,689,000	33,245,075	△ 2,556,075	108.3%	交歓会経費、全産連負担金等
受託事業費	3,000	71,108	△ 68,108	2370.3%	全産連脱炭素調査
事業費 合計	114,782,000	116,152,592	△ 1,370,592	101.2%	
②管理費（法人管理費）	16,164,000	15,491,624	672,376	95.8%	
経常費用計	130,946,000	131,644,216	△ 698,216	100.5%	
当期経常増減額	△ 3,686,000	3,065,597	△ 6,751,597		
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	-	
(2) 経常外費用					
予備費	2,500,000	0	2,500,000	0.0%	
経常外費用計	2,500,000	0	2,500,000	0.0%	
当期経常外増減額	△ 2,500,000	0	△ 2,500,000	0.0%	
当期一般正味財産増減額	△ 6,186,000	3,065,597	△ 9,251,597		
一般正味財産期首残高	152,032,136	152,032,136			
一般正味財産期末残高	145,846,136	155,097,733	△ 9,251,597	106.3%	
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	-	
指定正味財産期首残高	0	0	0	-	
指定正味財産期末残高	0	0	0	-	
III 正味財産期末残高	145,846,136	155,097,733	△ 9,251,597	106.3%	

一般社団法人 東京都産業資源循環協会  
役員名簿

令和6年5月24日

役職名	氏名	勤務先	備考
会 長	鈴木宏和	(株)京葉興業	重任
副 会 長	赤石賢治	(株)三凌商事	重任
〃	細沼順人	成友興業(株)	重任
〃	五十嵐和代	(株)五十嵐商会	重任
〃	加藤宣行	加藤商事(株)	重任
理 専務理事	鈴木研二	(一社)東京都産業資源循環協会	重任
常任理事	都築建	都築鋼産(株)	重任
〃	二木玲子	大谷清運(株)	重任
〃	森雅裕	(株)ハチオウ	重任
〃	井上弘之	東京ボード工業(株)	重任
〃	高橋潤	高俊興業(株)	重任
理 理事	石田太平	(株)太陽油化	重任
〃	有吉嘉一郎	(株)東京スタンドサービス	重任
〃	福田隆	東港金属(株)	重任
〃	新川研	(株)都市環境エンジニアリング	重任
〃	比留間宏明	比留間運送(株)	重任
〃	矢部要	丸順商事(有)	重任
〃	遠藤重雄	(株)リスト	就任
〃	廣木直江	(株)昌和プラント	就任
監 事	湊元良明	東京商工会議所	就任
〃	山崎隆一	松田産業(株)	重任
〃	吉本花子	日栄産業(株)	就任

【任期】第14回定時総会終結時まで



# 令和 6 年度 表彰受賞者

(順不同)

## ✳ 功 労 者 表 彰 受 賞 者

藤原 健次 様 (株)藤原土建 取締役会長  
 三田 和広 様 (株)リスト 専務取締役  
 福田 隆 様 東港金属(株) 代表取締役



## ✳ 優 良 事 業 所 表 彰 受 賞 者

有限会社 丸保商店 様  
 株式会社 完山金属 様  
 株式会社 トベ商事 様  
 株式会社 田邊商店 様  
 品川運輸 株式会社 様



## ✳ 優 良 従 事 者 表 彰 受 賞 者

立岩 健一 様 (株)ハチオウ	小峰 英一 様 (株)増淵商店
亀田 隆史 様 相田化学工業(株)	荒井 功 様 加藤商事(株)
江尻 克彦 様 (株)こばやし産業	宮木 睦 様 (株)日成ストマック・トーキョー
桑子 智行 様 (株)トベ商事	小岩 芳之 様 (株)まごころ清掃社
諏訪 部徹 様 (株)シンシア	高橋 朝也 様 (株)五十嵐商会
大崎 博昭 様 (株)三菱商事	



## ✳ 安 全 衛 生 表 彰 受 賞 者

会長賞 <従事者>  
 三橋 大伸 様 (株)三菱商事



## ✳ 感 謝 状 受 賞 者

野村 幸江 様  
 (故)白井 徹 様 遺族 白井 恵 様  
 木村 尊彦 様



## 賛助会員コーナー

### ◎出展企業 (敬称略)



- 1 日建リース工業 株式会社
- 2 株式会社 タウ 横浜支店
- 3 資源循環ネットワーク研究会

## 懇親会

表彰式終了後、17時30分より五十嵐和代 副会長の司会により懇親会を開催した。

鈴木 会長の挨拶に続き、来賓の方々から祝辞を頂戴した。

## 会長挨拶

## ■ 鈴木宏和 会長



皆様、本日はご多用の中、当協会の懇親会にご出席を賜り、ありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。懇親会の開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

上げます。

まず、先程開催された第12回定時総会において、令和5年度の事業報告及び決算が滞りなく承認されましたことを、ここにご報告いたします。

また、先程の総会では、新役員の選任につきましてもご承認を賜りました。後ほど、ご紹介いたしますが、新役員一同、一丸となって、協会並びに業界の発展のために努めてまいるので、よろしくお願ひ申し上げます。

本日の懇親会には、お忙しいなか、環境省環境再生・資源循環局次長の角倉様、東京都議会議員長の宇田川先生はじめ、協会顧問である東京都議会議員の皆様、東京都環境局次長の宮澤様、全国産業資源循環連合会専務理事の室石様、その他、多数の関係団体の来賓の皆様にご出席いただきました。

この場をお借りして、日頃より協会の運営にご支援ご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。引き続き

のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ問題など、国際関係が不安定となるなか、資源安全保障という問題も注目されていますが、政府では、資源安全保障、地方創生、そしてカーボンニュートラル等の地球的課題の解決をも見据え、循環経済への移行を強力に推進されています。近く策定予定の新たな循環型社会形成推進基本計画では、循環経済への移行を国家戦略として明確に位置付けると聞いております。

私ども、産業廃棄物処理業界は、循環経済の中心的な担い手として、大きく飛躍しなければなりません。また、廃プラスチックに代表される海洋汚染問題や脱炭素などの地球規模の環境問題の解決に向けた活動を進めていくことも、我々業界に求められています。

当協会は、産業廃棄物の適正処理に努めながら、これらの諸課題に行政機関等と連携し取り組んでまいるのであります。

また、災害廃棄物の問題も重要です。本年1月に発生した能登半島地震では、家屋、インフラに甚大な被害が発生しました。被災地の皆様には衷心よりお見舞い申し上げますが、この被災状況を目の当たりにして、災害廃棄物処理に係る広域的支援体制を構築することが喫緊の課題であることを再認識させられました。当協会におきましても、東京都の要請を受けまして災害廃棄物処理の支援体制構築に取り組んでいるところであり、この4月に災害廃棄物委員会を立ち上げたところでございます。国、東京都、区市町村との連携を進めるとともに、全国産業資源循環連合会や関東地域の各協会とも

調整を重ねて、災害廃棄物が発生した場合の迅速な処理体制を構築してまいります。

これらの課題に取り組むためには、業界で働く従業員の人材確保と定着に向けた取組も肝心です。優秀でやる気のある従業員が末永く勤められるように、安全な労働環境の整備に経営者が先頭に立って取り組むとともに、給与、労働時間などの改善や、従業員のモチベーションを高めていく取組を進め、他の業界に負けない魅力ある職場を提供していきたいと思っております。そのために、協会としても、勉強会や研修会、人材育成事業を通じて、会員企業を力強く支援してまいりますので、会員の皆様の参加、ご協力をお願いいたします。

本日のこの懇親会には、当協会の功労者表彰、優良事業所表彰、優良従事者表彰、安全衛生表彰を授与された受賞者の皆さんも参加しております。改めて受賞者の皆様のご貢献をたたえるとともに、業界の発展に向け、一層のご活躍をいただければ幸いに存じます。

最後になりますが、循環型社会の形成、そして循環経済への移行をめざす今日、行政、民間を問わず、幅広い関係者の皆様が連携を深めることがこれまでになく重要となっております。本日の懇親会では大いに交流を図っていただければと存じます。

資源循環業のますますの発展を祈念し、また、本日ご参加いただいた皆様のもすますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

## 来賓祝辞

## ■ 環境省 環境再生・資源循環局 次長 角倉 一郎 氏



本日は第12回総会、懇親会の開催、誠にありがとうございます。

まず私からご報告と御礼申し上げたい件がございます。今週火曜

日に私どもの方で皆様方とご相談させていただき国会に提出いたしました新しい法律「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律案」が参議院で可決成立いたしました。これも皆様方の厚いご支援の賜物と深く感謝しております。この法律は、今までの産業廃棄物の適正処理の推進を大前提としたうえで、法律の目的に地球温暖化対策推進、資源循環推進・高度化を掲げたもので、これまでの廃棄物リサイクル・資源循環行政を大きく前に進め、時代の転換点を象徴する新たな一步を示すものと考えております。私どもとしては、この新しい法律に基づき、再資源化ビジネスを大きく前に進めるために全力をあげて取り組みたいと考えております。大企業のみならず中小企業の皆様方の取組がさらに前に進んでいけるよう、皆様方とご相談させていただきながら、予算的な支援措置につきましても最大限汗をかいて、全力を尽くしていきたいと考えております。

さらに、この法律は、まだ第一歩にすぎないという形にしていきたいと考えております。私が環境省資源循環局次長に着任して以来、常に関係方面に申し上げているのが資源循環・循環型経済への移行は国家戦略として取り組むべき重要な課



題であるということです。適正処理の推進は大前提ですが、それに加えて資源循環を進めることは産業競争力の強化に直結し、ベースメタルやレアメタルのリサイクル・有効利用は、経済安全保障に資するものです。また、廃棄物は全国津々浦々から出てくるものですし、全国各地に高い技術力を持つ廃棄物リサイクル業の方が多数いらっしゃいます。この方々のビジネスを前に進めることは地方創生に資する大変重要な課題です。廃棄物が廃棄物であるという時代はもう終わりを告げております。日本がものづくり大国として生き残っていこうとするならば、バーゲン材を主体としたものづくりではなく、廃棄物から取り出した資源を使ったものづくり産業へ転換していく、資源循環産業が日本経済の中核をなしていく、そういう方向こそが今後日本経済が発展していくための道筋であると、私は強く申し上げてきましたし、皆様方からもその方向で進むべきであると力強い後押しをいただいていたところでした。

そうした中、第5次循環型社会形成推進基本計画案についてパブリックコメントを実施させていただきました。この夏にも閣議決定できるように鋭意調整を進めているところです。この基本計画の副題には「循環経済への国家戦略」と明記させていただいており、関係者一丸となってその方向でいこうという大きな流れができつつあります。私どもとしては新法を第一歩として、皆様方と手を携えて二人三脚で、さらに取り組んでまいりたいと考えておりますので、本日お集まりの皆様からの叱咤激励、さらなるご指導ご鞭撻をいただきながら取組を前に進めていきたいと考えております。引き続き環境省としても皆様方のお

役にたてるように身を粉にしてがんばっていきたいと考えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。本日はおめでとうございます。

■ 協会顧問 東京都議会議員

小宮 あんり 氏

鈴木会長をはじめ、新しい執行部役員のメンバーが新しい2年をスタートされたことに、あらためて心からお祝いを申し上げます。

本年は能登での大変な震災で始まる年となりました。鈴木会長のご挨拶の中にもありましたが、災害によって発生する廃棄物の処理について、東京でも真剣に考えなければならない年の初めであったと思います。災害廃棄物は、ながきにわたって出るものです。私も先日、能登へボランティアに行き、倒壊した家屋の瓦を、叩いて崩して土嚢に入れて、災害廃棄物置き場に持っていくということをやってまいりましたが、今ぐらいの時期になりますと、災害廃棄物でないものも、たくさん捨てられてしまっているという課題も垣間見ることができました。この



宇田川聡史 議員



田村利光 議員



松葉多美子 議員



小宮あんり 議員

東京において、行政だけでなく民間の力もいただきながら、災害に強い街づくりを循環社会・東京とともに進めてまいりたいと思いますので、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。本日はおめでとうございます。

■ 東京都環境局 次長

宮澤 浩司 氏



本日、総会を滞りなく終えられたと伺いました。まずはお祝い申し上げます。日頃より、貴協会並びに会員の皆様には、東京都の資源循環・廃棄物行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず、新年早々発生した能登半島地震は、石川県能登地方をはじめ各地に甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

都では、発災直後から石川県能登町や志賀町へ人的支援を行わせていただいております。そこで見えてきた課題も多数あります。仮置き場の整備・運用だけでなく、今後本格化する公費解体に向けた準備、手続き、解体後の処理のあり方等の業務についても、継続して人的・物的な支援を進めてまいります。

東京に目を転じてみますと、貴協会とは、大規模災害時における災害廃棄物の処理に関する協定を結ばせていただきまして、多大なご協力をいただいております。いざという時に円滑に活動できるよう、引き続き区市町村としっかり連携

を図り、皆様のお力をお借りしながら、東京都も汗をかきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

災害の話ばかりになりましたけれども、都と東京都環境公社は、今年度の新しい取組として、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した取組についての支援を始めようとしております。具体的には、AI 配車による収集ルート最適化や、ICTを活用した高度選別などを想定しています。ぜひ活用をご検討いただけますようお願いいたします。こうした取組により、今後とも貴協会と密接な連携を図りながら、資源循環施策を推進してまいります。様々な現場の意見を教えていただきながら、今年度の事業を着実に執行することは当然ですが、新規事業の展開に当たりましてもご協力いただくことを改めてお願い申し上げます。

結びになりますが、本日お集まりの各社の皆様のますますのご健勝、ご発展、貴協会のますますのご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、おめでとうございます。

■ 公益社団法人 全国産業資源循環連合会 専務理事 室石 泰弘 氏



日頃より全産連の様々な事業に対しましてご協力いただき誠にありがとうございます。

さきほど環境省の角倉次長がおっしゃったように「再資源化事業等の高度化に関する法律」が成立したばかりということで、私からも国に対し

てお礼申し上げたいと思います。脱炭素とサーキュラーエコノミーの同時実現ということで、世の中のフェーズが変わってきていると感じています。特に脱炭素につきましては、先だっの全産連の理事会で、従来の自主行動計画を「カーボンニュートラル行動計画」に名前を変えて 2030 年の従来目標をさらに深掘りしてパーセンテージをあげていくというようなことをご議論いただきました。来月の全産連の総会で新しい計画についてご説明したいと思っております。

こうした中、貴協会には JW センターの地球温暖化対策の調査にご協力いただいておりますし、災害対策やリチウムイオン電池の発火問題等にも積極的に取り組んでおられ、全国をリードする活動をされていると思います。今後ともよろしくお願いいたします。

最後に貴協会のますますのご発展と、今日会場にいらっしゃっている皆様のご健勝を祈念いたしまして私の挨拶といたします。本日はおめでとうございます。

**乾杯**

**■ 公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター**



**理事長 関 荘一郎 氏**  
さきほど角倉次長からお話がありましたが、新法が成立しました。これまでは動脈産業があつて静脈産業があるという社会構造でしたが、この法律によって社会の構造が少しずつ変わるスタートとなると感じております。

東京の昨年 1 年間の廃棄物の排出量は全国の 12%にあたる 1,000 万トン強となっ

ており、日本の資源循環の中心は東京であるということもできます。ですから、ここにお集まりの皆様方が良い仕事をすれば、その効果は全国に波及すると思えます。皆様方がご活躍されることを祈念いたしまして杯をあげたいと思います。

**中締め**

19 時 15 分、細沼副会長の中締めの挨拶と三本締めにより、盛会のうちに懇親会はお開きとなった。

協会役員が会場を退出する参加者を見送り、これにより全日程を終了した。

**■ 細沼 順人 副会長**



本日、鈴木 会長を筆頭とする新しい執行体制の 3 期目の船出となりました。当協会の前会長である高橋俊美さんの志を引き継ぎ、我々は産廃業界から産業資源循環業界・サーキュラーエコノミーへの移行に取り組んでまいりたいと考えています。我々が強くなっていけば、この新法は夢があつて未来が開けます。しかし努力を怠れば、大きな資本に淘汰される、そういう時代に突入していくと思います。東京の産業資源循環を担う当協会は、覚悟をもって前に進んでまいりたいと考えております。今日お集まりの皆様と力を合わせていけば必ずや明るい未来が開けていくと信じておりますので、今後とも当協会にご指導ご鞭撻、またご協力をよろしくお願いいたします。

**来賓芳名簿**

(順不同、敬称略)

環境省環境再生・資源循環局	次長 廃棄物規制課長	角 倉 一 郎 松 田 尚 之
協会顧問	東京都議会議員	宇田川 聡 史
協会顧問	東京都議会議員	田 村 利 光
協会顧問	東京都議会議員	松 葉 多 美 子
協会顧問	東京都議会議員	小 宮 あ ん り
東京都 環境局	次長 資源循環推進部長 産業廃棄物対策課長 多摩環境事務所 所長 廃棄物対策課長	宮 澤 浩 司 宗 野 喜 志 田 中 利 和 近 藤 豊 前 田 憲 一
公益社団法人 全国産業資源循環連合会	専務理事	室 石 泰 弘
	関東地域協議会 会長	杉 田 昭 義
公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター	理事長	関 荘 一 郎
公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団	調査認証チーム部長	改 田 耕 一
公益財団法人 東京都環境公社	理事長 常務理事	小 川 謙 司 谷 上 裕
一般社団法人 東京建設業協会	専務理事	野 瀬 達 昭
	事業委員会環境部会 部会長 事業部長	大 竹 利 幸 奥 尚 子
一般社団法人 東京建物解体協会	会長	藤 井 誠
建設廃棄物協同組合	理事長	富 山 盛 貴
東京廃棄物事業協同組合	副理事長	尾 崎 泰 裕
首都圏廃棄物事業協同組合	副理事長	小 出 英 昭
協会顧問	弁護士法人芝田総合法律事務所 代表弁護士	芝 田 麻 里
協会顧問	梅澤公認会計士事務所 所長・公認会計士	梅 澤 隆



第3次労働災害防止計画の安全衛生啓発ポスター  
(令和6年度)

本年は「第3次労働災害防止計画（令和5年からの5ヵ年計画）」の2年目となっております。協会会員の皆さまにおかれましては、労働災害の削減に向けた取り組みの推進にご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

労働災害を無くすためには、まずは経営トップの強い気持ちが必要です。「経営者の意識改革」を推進するための安全衛生啓発ポスターのデータが全国産業資源循環連合会より提供がありましたので、ここに掲載いたします。

尚、この計画に基づく上半期（令和5年～7年）の労災防止計画が機関誌第396号（令和5年9月1日発行号）に掲載されております。協会ホームページからもご覧いただけますので、皆さま再度ご確認くださいませと幸いです。

(安全衛生推進委員会)



## 事務局長就任のご挨拶



東京都産業資源循環協会 事務局長

竹内 高広

本年5月1日付けで事務局長に就任しました竹内です。誌面をお借りしまして一言ご挨拶申し上げます。

私は、1983年東京都に入庁しまして、主に自然環境保全の業務を行って来ました。自然を対象とするため、都庁新宿はもとより西は東京都最高峰雲取山から南は小笠原諸島までをフィールドとして働き地理・地勢や人の営みに触れ、東京の多様性を実感しました。

廃棄物の仕事は、定年退職後、2年間日の出町にある多摩地域の一般廃棄物最終処分場を管理している東京たま広域資源循環組合でエコセメントを担当しました。その後、3年間東京都環境公社中防管理事務所長として、江東区にある東京都の中央防波堤埋立処分場で23区一般廃棄物の埋立処分を行って来ました。産業廃棄物につきましては、東京都環境公社でスーパーエコタウン見学会を年数回実施し、都民の方を最先端の産業廃棄物処理・リサイクル施設にご案内する仕事をしてまいりました。

廃棄物行政の経験は少ないのですが、私の印象は「廃棄物の仕事はわかりやすくていい」ということです。都庁では様々

な仕事をしてきましたが、「この仕事は本当に全ての都民の役にたっているのだろうか」と思うこともありました。その点、廃棄物処理は「今日やらなければ、明日みんなが困る」わけで仕事の意義が明快です。近年、廃棄物処理はコロナ禍を経て業務の重要性が再認識され、「ブルーワーカーからエッセンシャルワーカーへ」と世間の見方も変わってきています。更に廃棄物処理業界の大きな流れとしては、廃棄物処理から資源循環へ、サーキュラーエコノミーの取組、動静脈連携の推進等が求められています。当協会におきましても、委員会では労働災害の防止、建設廃棄物のリサイクル、脱炭素の取組、人材確保などが検討され、協会としては災害が発生した場合の廃棄物の処理やDX化、財政の健全化に取り組んでいかなければなりません。

産業廃棄物処理業界を取り巻く状況が大きく変わろうとしている中、事務局のパフォーマンスを一層向上させ、協会の諸般の課題解決に取り組んでいく所存です。御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 東京都の産業廃棄物処理委託モデル契約書に リチウムイオン電池条項を明記

当協会法制度検討委員会は、昨年度来、産業廃棄物処理委託に係る東京都のモデル契約書に、リチウムイオン電池が混入していた場合の排出事業者の責任について明記すべく、検討を行い、東京都に提案してきましたが、このたびリチウムイオン電池に係る条項が追加され、東京都のホームページに掲載されました。

モデル契約書第8条第2項には、従来から、「廃棄物の処分に支障を生じさせるおそれのある物質」が混入し損害が生じた場合の責任について記載されていましたが、リチウムイオン電池混入に伴う小火災等の事故が後を絶たないことから、法制度検討委員会では、特にリチウムイオン電池混入に係る責任を強調する条項の追加を提案していました。

その結果、同条第3項として、以下の条項が追加されました。

第8条「3 甲（※排出事業者）は、リチウムイオン電池の処理を委託していない場合には、乙（※処理業者）に引き渡す廃棄物の中にリチウムイオン電池が混入しないよう厳に注意しなければならないが、リチウムイオン電池が引き渡された廃棄物の中から発見された場合には、甲が引き取り、その責任において適正に処理を行うものとする。」

都のモデル契約書にこの条項が明記されたことにより、排出事業者様の注意をより喚起できるとともに、これを活用することで責任の所在を明確にすることができま  
す。どうぞご活用ください。（事務局）

モデル契約書は下記からダウンロードできます。

※ 東京都環境局トップ→廃棄物と資源循環→産業廃棄物対策→排出事業者の方→委託契約書

[https://kankyo.my-admin.metro.tokyo.lg.jp/resource/industrial\\_waste/on\\_waste/keiyakusyo/](https://kankyo.my-admin.metro.tokyo.lg.jp/resource/industrial_waste/on_waste/keiyakusyo/)

※ または、検索エンジンで「産業廃棄物処理委託モデル契約書」を検索



## 危険を見つけるあなたの目、危険を摘み取るあなたの手

令和5年度 安全衛生標語コンクール 安全衛生推進委員会 佳作 受賞作品  
(一社) 東京都産業資源循環協会

### 身近なヒヤリ・ハット事例 Part 179

	何処で	何をしている時	何がどうした	改善事項
1	清掃作業現場で	分離槽の蓋開閉時	フタの持ち手が抜けて転びそうになった。持ち手がさびていて機能していなかった。	蓋を持ち上げる前に持ち手が壊れていないか確認してからあげる。お客様に状況を伝え、交換または補修依頼をする。
2	一般道で	運転中に	交差点内を右折しようとしたところ、対向車が止まってくれたので動きだしたら、死角から急に自転車が飛び出してきた。	対向車が止まってくれても安全確認をして、ゆっくり右折する。
3	一般道で	運転中に	前を走行していた車が突如の急ブレーキのため、追突しそうになった。	連休や休日は車の量も多いので、よりいっそう車の動きに注意する。常にかもしれない運転を心がけ、適切な車間距離を保つ。
4	駐車場で	出発の時	歩行者や自転車を確認してから出発しているが、一部死角になっているところがあり、危なかった。	死角がある時は目視ができる位置で止まり、安全を確認したあとに発進する。
5	作業現場で	お客様に受領サインをもらう時	一般のお客様が来店されたため、急いで受領サインをもらいに行くときに走ったら、床がぬれていて転倒した。	コーティングしている床は慌てないで状況確認する。床が濡れていたら、すぐに拭き取る。
6	一般道で	運転中	片側2車線道路の左側走行中、脇道から自転車がノンストップで車道に出てきた。	制限速度を厳守し、周りをよくみて最悪のパターンを想像し、回避できるようにする。

「ヒヤリ・ハット」の事例がございましたら、協会までお寄せください。





## 施設見学会を開催 ～ ANA Blue Base Tour ～

青年部(矢部 要 部長)は、令和6年4月16日(火)、ANAの訓練施設(大田区羽田旭町)において施設見学会を開催しました。

参加者25名は2班に分かれて各班約75分の訓練施設内見学ツアーに参加しました。  
(中野運輸(株) 吉原 雅人 記)



見学ツアーのエントランスにて (A班)

参加者は京浜急行線穴守稲荷駅より徒歩8分の場所にあるANA訓練施設(ANA Blue Base)前に集合し、2班に分かれて15分差でそれぞれツアーに出発しました。ツアーにはANAの現役社員の方がガイドとして案内を担当していただき、見学専用エリアからガイドの方の経験談を交えて興味深い話を聞くことができました。

見学の途中には映写機を使ったANAの職種紹介や模型・ANAの歴史を感じることでできる歴代制服などの展示ブース、操縦室や客席などの体験ブースがあり、

参加者たちは撮影が許されたエリアで写真撮影をするなど普段は見るできない体験を楽しんでおりました。

また研修風景はグラウンドスタッフ、客室乗務員、グラウンドハンドリングスタッフ、貨物スタッフ、整備士、運行乗務員の6職種に分かれており、それぞれの職種の裏側や訓練内容、スキルアップのための試験、階級制度などの説明を受け、各自が担当部門のプロフェッショナルとして1日でも早く成長するために努力している姿がひしひしと伝わってきました。

ツアー中、参加者たちはガイドの方の



ANA Blue Base をバックに (B班)

説明に耳を傾けながら、制限時間いっぱいになるほど多くの質問を投げかけていました。

最後にこの施設見学会を通じて、ANAという企業それぞれの部門が組織として連携し、そこで勤務するスタッフ一人一人が常にモチベーションを保ち、スキルの向上を目指すことで空の安全が守られているのだと強く感じられました。

業種は違っても各セクションが職責を全うし、連携して組織として存在価値を高めるという姿勢は全ての企業が目標とし、見習うべき本来の姿であると思いました。

今回の施設見学会に参加した部員が所属する会社において新人教育、研修をする中、何かしらのお役に立てることを願います。

その後、参加者たちは親睦会にてコミュニケーションをとり大変有意義な施設見学会を開催することができました。



操縦室体験ブース



模型展示ブース

理 事 会 ・ 委 員 会 報 告

第 8 9 回 理 事 会

開催日時：5月8日(水) 15時05分～17時05分 場所：協会会議室

出席者：理事 18名 / 監事 1名

議題：

1. 決議事項
  - (1) 新入会員の承認
  - (2) 第12回定時総会議案の決定
2. 協議事項
  - (1) 第12回定時総会の進行
3. 報告事項
  - (1) 「災害廃棄物支援可能機材・施設等調査」の実施
  - (2) 4月の月次会計報告及びマニフェスト販売状況
  - (3) 関東地域協議会（4月16日）開催結果
  - (4) 産業廃棄物処理業者に対する行政処分  
委員会報告・部会報告

次回開催日：第90回理事会 6月12日(水)

中間処理委員会 中和・脱水分科会（板垣リーダー）

開催日時：4月26日(金) 15時～ 場所：協会会議室 出席委員：4名

議題及び内容：

- 令和6年度の活動について（日程、見学先詳細は調整中）
  - 6月に分科会を開催
  - 10月もしくは11月に施設見学会
  - 令和7年2月にオンラインセミナー開催（LCA、ESG）

次回開催日：6月27日(水) 15時～ 協会会議室

人材確保プロジェクト（二木リーダー）

開催日時：5月9日(木) 14時～ 場所：協会会議室及びWeb会議 出席者：8名

議題及び内容：

- 令和6年度の活動計画について
- ・ドライバー採用に関する「オンラインセミナー」開催（6月）
  - ・人材定着を目的とした「若手社員のためのスーパーエコタウン研修会」開催（10月）

- ・ 会員企業合同で取り組むインターンシップ事業実施（令和7年度）に向けての調査研究

次回開催日：6月21日(金) 14時～ Web会議

建設廃棄物委員会 建設汚泥・再生砕石分科会（細沼座長）

開催日時：5月10日(金) 15時～ 場所：協会会議室 出席委員：8名

議題及び内容：

- コンクリートがらの再生品推進について
  - コンクリートがらの需要がなく、在庫がひっ迫している再生品利用の取組みを進めていくよう引き続き行政に要望していく。

次回開催日：未定

収集運搬委員会（加藤委員長）

開催日時：5月14日(火) 14時～ 場所：協会会議室 出席委員：12名

議題及び内容：

- ・ ドライバー高齢化に伴う諸課題について
  - 委員への事前アンケートの回答結果をもとに、各社の課題や取組等を委員間で共有し、質疑応答や活発な意見交換が行われた。
- ・ アルコールチェック義務化に伴う研修会について（6月25日開催）
  - 講演内容等について説明後、当日の役割分担を決定した。
  - 会員への案内を再度行っていく。
- ・ エコドライブ研修会について（7月24日開催）
  - 日程等の開催概要を決定した。
  - 会員へ向け、5月下旬に案内を開始し、体験ドライバーの募集を行っていく。
- ・ 施設見学会について（9月27日～28日開催）
  - 進捗状況の報告が行われ、予算や企画内容・今後の予定等について検討した。
- ・ 事故防止研修会（11月29日開催）
  - 概要の説明があった。今後詳細を決定していく。

次回開催日：研修会 6月25日(火) 14時～ 外部会議室





## 株式会社 調布清掃の障がい者雇用 (会社・上司のあり方と取組)

この連載企画は、会員各社の障がい者雇用や高齢者雇用などの取組を互いに学ぶことで、優しい社会に向けた一助になればと思い、本誌第404号より不定期連載としてスタートしました。初回は、調布清掃様で活躍されている障がい者の方へのインタビュー内容を掲載しました。今回は実際に働く現場で、同社の職員の方や責任者、経営層の方がどのような工夫をされているか、具体的な内容を紹介します。皆様が障がい者雇用に取り組まれる際の参考となれば幸いです。

(広報委員会 委員長 森 雅裕)

※会社で障がい者雇用をするにあたりどのような流れで雇用をされていますか。

望月 経営企画室長： 知的障がいがある方については、まず特別支援学校や障害者地域就労支援センター、ハローワーク等から、当社の仕事内容に合うと思われる方が仕事を探している場合に、情報を頂く事からスタートします。ご本人やご家族、また特別支援学校の場合は先生、就労支援センターの場合はご担当の方とも面談し、弊社の仕事内容をお伝えし、どの現場で仕事していただくのが良さそうかを打合せします。

音に対して敏感な方、他のスタッフと一緒に仕事をする事を苦手とする方、コミュニケーションを取るのが難しい方、仕事の理解の難易度等、その人の特性に合わせて配属先を考え、2週間程度のトライアル期間を設けて、まずは短時間から現場に入って貰いま



(左から) 望月氏、宇治氏、森 広報委員長

す。ご本人が問題なく仕事を続けていけそう、受け入れ現場も受け入れ態勢が整っているとなったら採用となりますので、お一人の方に対してお話しを頂いてから採用までは何ヶ月か掛かります。

※クリーンセンターの現場では2名の知的障がい者の方が働かれていますという事ですが、現場責任者としてどのような工夫をされていますか。

宇治 主任： M.Y.さんはコミュニケーションを取ったり、自分の思っている

事を伝えたりするのが得意ではないという特性があります。粗大ごみを解体する場所には他のスタッフとの間に衝立を立てて、周りから入る情報量を少なくし、仕事に集中しやすい環境を作っています。

粗大ごみはたくさん種類があり他のスタッフは色々な製品を解体しておりますが、M.Y.さんには一つの製品に集中して解体して貰い、段階を経て少しずつ習得して貰っています。こちらから伝える時も一度に多くの情報を伝えずに少しずつ伝え、理解できたら次の情報を伝えるという方法を取っています。

F.T.さんはコミュニケーションを取るのが得意なのと、音に対しても問題ないので、缶プレスの現場で他のスタッフの方と一緒にコンベア前で缶に混入している異物除去の仕事をして貰い、古紙回収の日には搬入された古紙を分別して貰っています。多くの事を自立して行う事ができます。

知的障がいがある方にとって急な変更は対処が難しいので、お二人ともに毎日のルーティンを崩さないよう配慮しております。また仕分けする場所の表示は分かりやすく分類表示をするよう心掛けています。

※一人一人特性が違うのですね。他に個別に対応する事はあるのでしょうか。

宇治 氏： M.Y.さんは他のスタッフより始業開始時間が遅いので、毎朝個別

に朝礼を行い、話をしながら顔色・言動を確認して体調に変化が無いかを見えています。また専用の日報を作成しており、本人からは自己評価や感想、責任者からはコメント記入と日々の仕事での状況を記入しています。この日報は東京都が実施する「職場内障害者サポーター事業」の研修を受けた際に、日報活用の助言を頂き、それを実行しているものです。M.Y.さんは就労支援センターの方と毎月1回面談を行っていますので、その日報をお見せしてコメントを書いて貰う事で、情報の共有を3者(障害者地域就労支援センター、M.Y.さん、㈱調布清掃)で行っており、ご本人が働きやすい環境を作れるように多方面で見守っています。何か問題が発生した場合は、支援センターと会社に報告し、一緒に対処しております。

※他のスタッフの方とはどのように働かれていますか。ご協力もあるのですか。

宇治 氏： M.Y.さんは細かい作業が難しく、解体を最後まで完結する事はできないので、複雑な工程は他のスタッフが引き継いでやっています。また掃除や分別も正確に行う事ができないので、スタッフが毎日掃除をサポートしたり、分別したものをチェックしたりする事で助け合っています。皆様のご協力があったからこそ成り立っています。

F.T.さんに対しても、現場にいる他のスタッフの人たちがいつも気を配っ

ており、必要な助言をしたり、頑張っていることに対してありがとうと声を掛けたりしています。

※失敗もあったのでしょうか。

望月氏： 過去には様々な問題も発生しました。一緒に働く健常者のスタッフが正しくない対応をした事もありました。問題があったらすぐに現場から会社に報告して貰い、一緒に考え是正して、を繰り返してきました。現場だけに任せるのではなく、会社として一緒に取り組む事が大事だと思っています。

※ ※ ※

2回に渡って、調布清掃様の障がい者雇用について紹介しました。新企画の「優しい社会に向けた会員企業の取組」に相応しい情報を提供していただきました。現実には、困難なこともありますがお互いを思いやる会社の風土が大切なのだと実感しました。障がい者の方々は、望んで障がいを持つことになったわけではなく、私たちも、いつ障がいを持つ側の立場になるか解りません。そうした意味では、他人事では済ませられないのではないのでしょうか。障がいを持たれている方への理解をしなければと思いました。

最後になりますが、ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。



## 新 入 会 員 紹 介

### 上昇運輸 株式会社

代表取締役 入井 雅也

東京都知事 産業廃棄物収集・運搬（積替え保管を除く。）

〔 汚泥（脱水後のものに限る）、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む。） 〕

東京都知事 特別管理産業廃棄物収集・運搬（積替え保管を除く。）

〔 ①廃油（揮発油類、灯油類、軽油類）、②廃酸（pH 2.0以下のもの）、③廃アルカリ（pH 12.5以上のもの）、④特定有害産業廃棄物（ア. 廃石綿等、イ. 金属等を含む廃棄物 < 別表省略 >） 〕

〒 920-0356 石川県金沢市専光寺町レ3番地30

☎ 076 (268) 0778

## 広 告

### 株式会社 京葉興業

URL <https://www.keiyokogyo.co.jp>



快適な環境づくりと  
自然との共生をめざして



### 適正処理と高度資源循環のため システムソリューションを推進します

### < 京葉興業グループ >

実績と信頼のもと  
多様なニーズにお応えします

株式会社 京葉興業 〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町1丁目2番6号 Tel03-3678-0111 Fax03-3670-9140  
三和清運 株式会社 〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町3丁目2番6号 Tel03-3679-8555 Fax03-3679-3855  
株式会社 ビー・アル・クリエイト 〒289-0511 千葉県旭市鏡木3484番地1 Tel0479-68-4808 Fax0479-68-4809



# 広告主募集

## 広告主を募集します

協会機関誌「とうきょうさんぱい」への広告掲載を希望される方を募集します。

- 【条件】① 広告主は当面、**協会正会員**または**賛助会員**とします。  
 ② 本文中1ページ（コート紙）**カラー表示**となります。  
 ③ 広告原稿はPDF形式のデータをご提供ください。  
 B5版にし、そのまま掲載いたします。

※ 広告料金、掲載期間等その他詳細につきましては協会事務局までお問い合わせください。

### お問合せ

一般社団法人 東京都産業資源循環協会事務局 担当：中澤  
 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13 柿沼ビル7階  
 TEL 03 (5283) 5455 E-mail: info@tasankyo.or.jp

## 「産業資源循環情報」の原稿を募集します

(一社) 東京都産業資源循環協会 広報委員会

協会機関誌「とうきょうさんぱい」では、第346号(令和元(2019)年7月1日発行)から、「産業資源循環情報」として、会員企業における取組を紹介しています。

このほど新たに、すべての正会員または賛助会員の皆様に「産業資源循環情報」の原稿を募集し、順次掲載することにいたしました。会員企業の皆様の事業を紹介するよい機会にもなるかと思っておりますので、ご応募をお待ちしております。

### 掲載の方法：

- ・ B5版1ページ、白黒での掲載となります。
- ・ 本文の文字数は800字～1,000字以内(写真・図表は文字数により2点程度)
- ・ 内容は産業廃棄物に係る資源循環に関することであれば結構です。
- ・ 詳細は下記へお問い合わせください。

※機関誌のバックナンバーは協会ホームページからご覧いただけます。

### お問合せ

協会事務局 担当：中澤 e-mail: info@tosankyo.or.jp  
 協会ホームページ: https://tosankyo.or.jp 電話: 03-5283-5455

## 協会の主な今後の日程

(令和6年6月12日現在)

月	日	曜日	行事予定	備考
7	9	火	全産連 ; 理事会	全産連会議室 Web (ハイブリッド)
	10	水	広報委員会 10:00～	協会会議室
			三役会議 / 常任理事会 / 第91回理事会	協会会議室
	11	木	青年部 幹事会 13:30～14:30	協会会議室
			全産連青年部協議会・関東ブロック 15:00～17:00	当協会会議室
	17	水	中間処理委員会 「最新技術動向の説明会」 13:30～16:30	エッサム神田ホール2号館 (千代田区内神田)
	18	木	女性部 幹事会 15:00～	協会会議室
	22	月	破碎・圧縮分科会 15:00～	協会会議室
	24	水	収集運搬委員会 エコドライブ研修会 終日	日野自動車 羽村工場
	26	金	医療廃棄物委員会 15:00～	協会会議室
29	月	人材確保プロジェクト 午後 (オンラインセミナー)	協会会議室	
8	9	金	全産連青年部協議会・関東ブロック 15:00～17:00	当協会会議室
	14	水	広報委員会 10:00～	協会会議室
	15	木	女性部 幹事会 15:00～	協会会議室

### 表紙の言葉

●今月の写真: [コミュニティバス] 「にじバス」(小平市)

にじバスは、小平駅南口を発着し小平市役所周辺、公民館・図書館・福祉会館・健康福祉事務センター等を結ぶコミュニティバスです。オレンジ色を基調としたバス停が、約200メートル間隔で設置され、午前7時から午後7時発まで20分間隔・年中無休で運行されています。また、にじバスの回数乗車券や1日乗車券を購入された方には「サンクスクーポン」が配布され、サンクスクーポン参加店で各店舗の特色あるサービスを受けることができるそうです。

●参照: 小平市HP <https://www.city.kodaira.tokyo.jp>

●撮影者: 塩沢 美樹 (機関誌編集担当)

事務局だより

5月24日(金)に第12回定時総会および総会後懇親会が開催されました。お陰様で多くの会員様にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。ご来場いただきました皆様、お忙しい中誠にありがとうございました。

協会行事の中でも、定時総会後の懇親会と賀詞交歓会は、多くの会員様と交流いただける貴重な機会となっております。開催にあたりましては、会員の皆様・役員の皆様をはじめ、大変多くの関係者の皆様にご尽力賜っております。皆々様に心より感謝申し上げます。

当協会の定時総会・賀詞交歓会は長年にわたりホテル椿山荘東京で開催してまいりましたが、毎回会場スタッフの皆様にもいろいろと助けていただいております。感謝の念に堪えません。ホテル椿山荘東京と言えば、「ほたるの夕べ」や最近では「東京雲海」などが有名ですが、「ほたるの夕べ」はちょうど定時総会の開催時期と重なることから、会場側のご厚意で、ご来場いただいた皆様に庭園への入場チケットを特別に配布いただいた年もございました。閉会後に足をお運びいただいた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。庭園も広く、都会の中とは思えない幻想的な光景に、日ごろのお疲れも癒されたことと存じます。会場ご担当者様のお心遣いに感謝するばかりでございます。

さて、長らく同会場での開催が続いておりましたが、次回の賀詞交歓会では別会場での開催を予定しております。これまでとはまた違った趣があるかもしれません。ご期待くださいませ。新しい会場でまたのご来場を心よりお待ちしております。

編集後記

トップ記事でご紹介しておりますとおり、第12回定時総会と懇親会がホテル椿山荘東京に於いて開催されました。

懇親会の来賓祝辞では、環境省の角倉次長、JWセンター副理事長、全産連室石専務理事より、「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律案」の参議院可決成立と、再資源化ビジネスを大きく前へ進める業界への期待が述べられました。一方、協会顧問の小宮東京都議会議員、環境局宮澤次長より、協会が都と結んでいる大規模災害時における災害廃棄物処理に関する協定についても触れられました。また、新たな理事と監事が加わり新体制となった役員名簿、表彰受賞者、竹内高広新事務局長就任のご挨拶も掲載しました。ぜひご覧ください。

さて、宮澤次長の挨拶では、都と公社による新たな取組として、DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用した企業の取組への支援についても紹介されました。

労働人口が減少する社会では、どの会社もデジタル化に頼らざるを得ないと思いますが、DXはもっと高度な目的となっています。経産省のレポートでは、3つのフェーズに分けて説明されています。①「デジタイゼーション」アナログのデジタルデータ化する段階、②「デジタライゼーション」その入力したデータをつないでゆくプロセスのデジタル化の段階、③「DX」それらを踏まえて、組織横断でプロセスをデジタル化し、組織全体がトランスフォームすること。単なるデジタル化ではなく、顧客起点の価値創出のための事業やビジネスモデルの変革を目的としています。

動脈、静脈の壁を越えてDXに取り組むことで、資源循環促進の高度化に寄与することでしょう。また、そのための人材育成も必要があるのでしょう。

本誌を通じて、新法の動向やDXに関する情報も皆様へご案内できるよう努めたいと思います。(森)

とうきょうさんぱい

第41巻第4号通巻第406号

令和6年7月1日発行

発行人  
企画・編集  
発行

鈴木宏和  
広報委員会

一般社団法人 東京都産業資源循環協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13 柿沼ビル7F  
TEL 03(5283)5455(代表) FAX 03(5283)5592  
https://tosankyo.or.jp E-mail:info@tosankyo.or.jp

創業63年、人々が安心して生活できる  
安全で快適な環境づくりに貢献します



練馬の大地  
おいしい作物は元気な土づくりから...  
弊社の資源リサイクルセンターにて学校給食残さをリサイクルし、良質の土壌改良材を精製しております。

廃棄物処理	警備
◆一般廃棄物収集運搬 ◆産業廃棄物収集運搬 ◆医療系廃棄物 ◆資源リサイクル	◆施設警備 ◆駐車場管理 ◆交通・雑踏警備
建物清掃	環境衛生
◆日常清掃 ◆定期清掃 ◆浄化槽・貯水槽清掃	◆空気環境測定 ◆水質検査 ◆害虫駆除

総合ビルメンテナンス  
**株式会社 五十嵐商会**

IGARASHI  
[本社] 〒177-0031 東京都練馬区三原台2-1-27 TEL03(3922)7547 FAX03(3978)1533  
http://www.igarashisyokai.co.jp 五十嵐商会 検索

PCBの処理期限までの全量廃棄を目指します  
PCBに関するあらゆる問題をワンストップで解決していきます

全数調査	選別調査	分析・運搬業務	申請サポート
------	------	---------	--------

解体や全数調査時に新たにPCB廃棄物が見つかる事例があります。  
調査漏れが不安な方はお気軽にご相談ください。

**KATO 加藤商事株式会社**  
http://www.katosyoji.tokyo

未来の地球に持続可能な環境を創る企業

本社 〒189-0011 東京都東村山市恩多町1-12-3  
TEL: 042-392-1001 FAX: 042-394-1453  
赤坂営業所 〒107-0052 東京都港区赤坂4-4-14 未来環境創造ビル1F  
TEL: 03-6277-7187 FAX: 03-6277-7197

北九州事業エリアで  
処分期間後に発見された  
高濃度PCB廃棄物  
196件  
(令和2年10月末現在)  
環境省 http://www.env.go.jp/recycle/poly/confs/tekisei/28pcb.html

一般社団法人日本PCB  
全量廃棄促進協会 (JPTA) JPTA  
会員企業

2019年度 産業資源循環協会 (経産省認定) 産廃エキスパート  
認定番号 S-19-00038